

## 野菜の産地強化計画の概要

### 1. 産地強化計画の趣旨

野菜産地においては、国際競争にも耐えうる体質の強い国内産地体制を確立するため、産地独自の改革計画に基づき野菜の構造改革を実施してきたところであり、一定の成果が得られています。

しかし、国産野菜の産地では、高齢化、担い手の減少などが進行し、近年の猛暑や予測の困難な局地的豪雨等の異常気象の発生と相まって、産地基盤の脆弱化が進む一方、加工・業務用需要を中心に輸入野菜のシェアは依然高い傾向にあります。

このような状況を踏まえ、将来においても安定的な野菜の生産及び供給に向け、多様な担い手の育成・確保を図るとともに、輸入野菜との品質・価格競争に打ち勝つため、産地基盤の強化や、消費者・実需者のニーズに対応した一層の低コスト化、高付加価値化及び加工・業務用需要への対応強化等を通じて、競争力のある生産供給体制の確立等を図るための構造改革を推進することが重要です。

この産地強化計画は、新たな構造改革の推進にあたり、県内の各野菜主要産地が各々の特性や地域の意向を踏まえて構想した将来像を実現するため、産地ごとの明確な目標を定めたものです。

### 2. 取り組む戦略タイプ

産地強化計画を策定するにあたり、各産地は以下の戦略タイプのうちから、各産地の特性や意向に応じて任意の戦略を選択します。

#### ア 低コスト化タイプ

輸入野菜にコスト面でも対応しうる産地とするため、生産・流通コストの削減等を目標とする更なる低コスト化の取組

#### イ 契約取引推進タイプ

実需者のニーズに応えつつ、安定した経営を確保するため、定量、定価、定時、定質による契約取引の継続・拡大等の取組

#### ウ 高付加価値化タイプ

消費者・実需者ニーズに対応して、品質、機能性、安全・安心、鮮度などの観点から差別化・付加価値化した野菜を供給する取組

#### エ 資材低減タイプ

資源循環型の持続可能な産地とするため、効率的な施肥体系への転換等を行い肥料、燃油その他資材の使用を抑制する取組

#### オ 加工・業務用推進タイプ

加工・業務用需要に対応した生産の拡大を図るために、実需者ニーズを踏まえて、加工・業務用野菜を安定供給する取組